

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

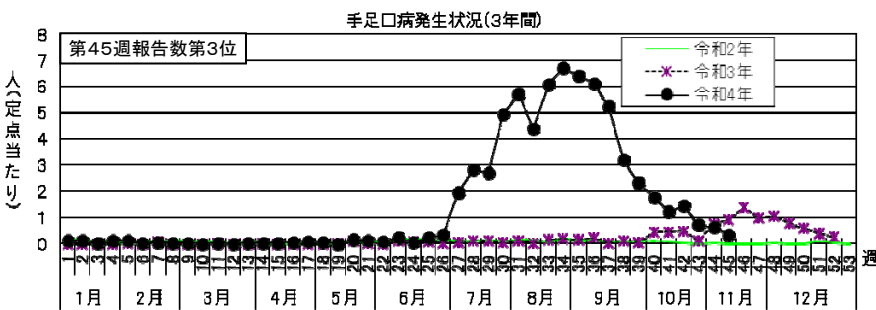
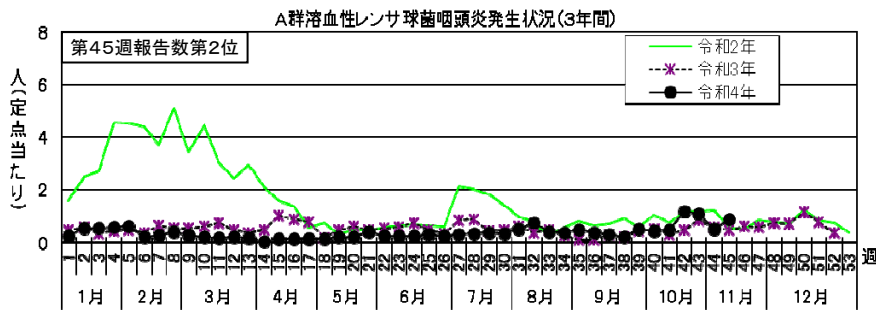
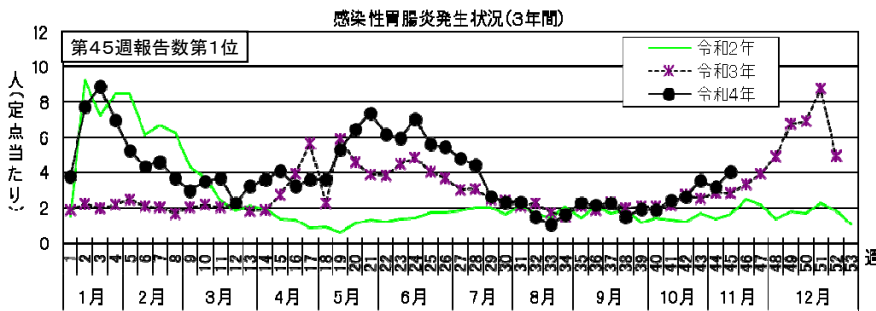
令和4年11月7日（月）～令和4年11月13日（日）〔令和4年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.06人と前週（3.19人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週（0.50人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.64人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

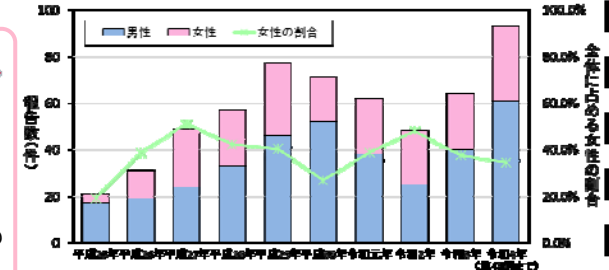


梅毒の報告数が過去10年間で最多に！

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第45週（11月7日～13日）までにすでに計93件と、過去10年間で最多となりました。

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷などから感染します。病期により様々な症状が出現し、無治療のまま症状が消失する時期もあります。また、潜伏期間の間に人に感染させる可能性もあり、気付かないうちに感染が拡大することがあります。特に、妊婦が感染し適切な治療が行われなかった場合、胎児が先天梅毒（皮膚病変、肝脾腫、奇形等）を発症する可能性がありますので、感染の可能性がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

川崎市における梅毒発生状況(10年間)



梅毒とは？

病原体：梅毒トレポネーマ

感染経路：性的接触等

潜伏期間：3～6週間

主な症状

- 第Ⅰ期（感染後約3週間～）：局所にしこりや潰瘍等の皮膚病変、無痛性のリンパ節腫脹等
- 第Ⅱ期（感染後約3か月～）：手掌や足底を含む全身に皮疹、粘膜疹等
- 晩期（感染後数年～）：心臓や血管等の病変

治療：抗菌薬治療

※先天梅毒を予防するためのポイント

- ・定期的な妊婦健診
- ・疑わしい症状がある場合の梅毒検査
- ・梅毒診断時の早期治療
- ・妊娠中の安全な性交渉

